

校訓	盡 己	令和8年度学校通信 「松中だより」 第4号	発行日	令和8年6月24日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～すべての生徒の可能性を伸ばし、 充実した教育の実現を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 竹内 善一

【創立記念日について】

向暑の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

また、平素は本校の教育活動についてご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本日（6月24日）は、松崎中学校の創立記念日です。本校は昭和50年（1975年）、西中学校と南中学校の生徒増加にともない、その解消のために建設されました。昭和50年（1975年）4月に、新2年生233名（西中より196名、南中より33名、他4名）と新1年生235名の合計468名で、始業式と入学式が行われました。また、同年6月24日に「開校式」が行われ、この日を創立記念日としています。創立52年目にあたり、令和8年3月末時点で、13,267名の生徒が卒業しています。

松崎中学校の名前の由来

開校当時の地名「伊丹市山田字松崎2-1」の「松崎」をとり、名付けられました。本校の建設前は、田んぼや畑など広い農地だったそうです。

松崎中学校の校章

校章は、「松葉」と「伊丹市章」、中学校の「中」の組み合わせでデザインされています。

<松葉>



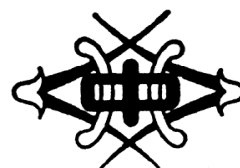
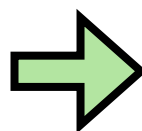
<伊丹市章>



<校章>

中

学校



盡 己

じ ん こ

体育館にある「盡己」の額は、開校当時に地元の山田農会からいただいたもので、「じんこ」と読みます。意味は「己を尽くす」。つまり「ベストを尽くす」ということです。

この校訓「盡己」という言葉は、柔道の創始者である嘉納治五郎先生が残した盡己竣成（じんきしせい）と言う言葉の一部と聴いたことがあります。

柔道は「受け身」が基本です。「受け身」とは、投げられたときに自分の体を守るための倒れ方の練習です。柔道の試合を観戦したことのある人は分かるでしょうが、投げられるということは、負けるということです。柔道は、まず真剣に「負けること」から教わるのです。ただ、それだけではなく、転んでも、すぐに起き上がる練習でもあります。

この校訓は、中学校生活で、もし失敗しても、「受け身」の精神で、すぐに起き上がり、くりかえし、いろんな事に挑戦するという思いが込められていると思います。

テレビなど見ていてアスリートの選手が、転んだとしても笑う人なんて一人もいません。なぜでしょう。それは、全力で挑戦しているからです。全力で挑戦することは美しいことですよね。

校訓「盡己」のもと、何事にも全力で取り組み、ベストを尽くして挑戦しましょう！

昭和50年（1975年）6月24日 開校記念式典

